

2013年7月8日

佐世保市水道局長
川久保 昭 様

石木川まもり隊
水問題を考える市民の会

佐世保重工業の使用水量の将来予測に関する公開質問書

佐世保重工業(株)(SSK)は5月17日に2015年度を目標とする「新中期経営計画」を発表しました。この計画は、昨年10月25日発表の「向こう3ヵ年の経営方針」を達成することが早くも困難になり、見直しを行ったものです。人員を250名削減して、770名体制にするという厳しい内容になっています。

一方、佐世保市水道局が今年1月に発表した新需要予測において、将来の予測値を大きく引き上げる最大の要因となっているのは、SSKの使用水量の急増です。修繕船の売上高を2倍にするSSKの経営方針があることを理由にして、SSKの使用水量が2015年度以降は2011年度実績値の約5倍に急増するというものです(3ページの図1と図2を参照)。修繕船の売上高2倍がなぜ、SSKの使用水量5倍に結びつくのか、全く不可解な市の予測ですが、今回発表されたSSKの「新中期経営計画」で、その疑問がさらに鮮明になってきました。

以下、この問題について質問しますので、真摯にお答えくださるよう、お願いします。7月22日までに文書でご回答ください。

1 SSKの経営計画と市の水需要予測との関係

今回発表の「新中期経営計画」では2015年度の艦艇・修繕船の売上高を95億円に下方修正しました。昨年10月の「向こう3ヵ年の経営方針」では2014年度の艦艇・修繕船の売上高は100億円でした。2011年度の艦艇・修繕船の実績売上高は86億円(総売上高661億円×13%)ですから、「新中期経営計画」の2015年度見込みは実績の1.10倍、「向こう3ヵ年の経営方針」の2014年度見込みは1.16倍です。

ところが、佐世保市水道局の水需要予測の資料では「SSKでは経営方針変更に伴い、修繕船の売上高を約2倍見込んでいる。」(「佐世保市上下水道事業経営検討委員会(石木ダム再評価第1回目)」の配付資料2の56ページ)とし、それを理由に2015年度以降、SSKの使用水量を急増させています。

1.10~1.16倍と2倍とではきわめて大きな違いがあります。SSKの経営計

画では修繕船の売上高は1.10～1.16倍であるのに、なぜ市の予測では2倍に大きく膨れ上がるのか、その理由を明らかにしてください。

2 佐世保市水道局が使用したSSKの経営計画

佐世保市水道局が新水需要予測を行うにあたって、上記の「向こう3カ年の経営方針」や「新中期経営計画」以外で使用したSSKの経営計画があるならば、その経営計画の名称と内容と策定年月日を明らかにしてください。

3 修繕船の売上高2倍がSSK使用水量の5倍急増に結び付く理由

上述のとおり、修繕船の売上高が2倍になるという佐世保市が想定する根拠が不明ですが、問題はそれだけではありません。冒頭で述べたように、佐世保市水道局の新水需要予測では修繕船の売上高を2倍にするSSKの経営方針があることを理由にして、SSKの使用水量が2015年度以降は2011年度実績値の約5倍に急増するというまことに不可解な予測が行われています。「佐世保市上下水道事業経営検討委員会（石木ダム再評価第1回目）」の配付資料2の56ページに書かれている計算過程だけでは到底納得できませんので、修繕船の売上高2倍がSSK使用水量の5倍急増になぜ結び付くのか、その理由を明瞭且つ平易に説明してください。

また、修繕船の売上高2倍がSSK使用水量の5倍急増に結び付くという予測はSSKの同意を得たものかどうか、市の一方的な見解による予測であるかどうかも明らかにしてください。

4 佐世保市水道の新水需要予測の見直しについて

1で述べたとおり、SSKが今回発表した「新中期経営計画」によって、佐世保市が新水需要予測で前提とした「SSKでは経営方針変更に伴い、修繕船の売上高を約2倍見込んでいる。」が事実ではないことが明らかになりました。SSKの「新中期経営計画」に基づいて、佐世保市は新水需要予測の見直しをする責務があります。このことについて市の見解を明らかにしてください。

以上

図1 SSKの修繕船受注隻数

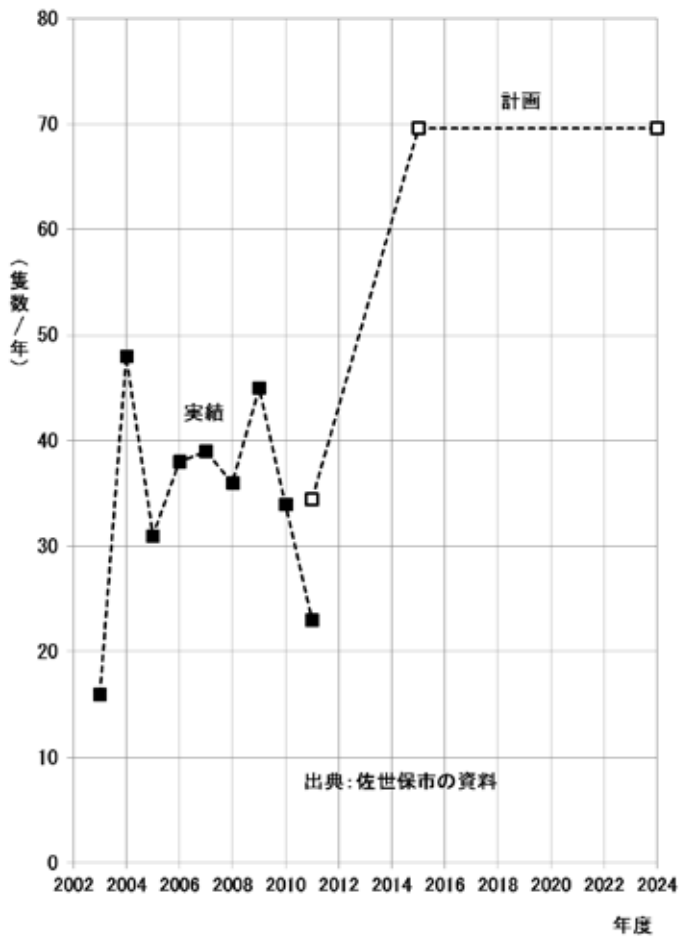


図2 SSKの使用水量の実績と市予測

